

令和7年度 i-保育園 事業計画

◆法人の年度方針

・少子化、コロナ渦を経て社会の流れや価値観は変わった。誠に必要とされる機能以外は存続できない。さらに我々の労働集約事業は、個々の職員の「向学心」・「探求心」・「人間性向上」こそが機能の源泉であることから、その為のあらゆる個々の専門職としての自己改革を行わなければならない。・自組織体（園）の強み弱みを分析し、強みは確固たる特性へ極める方策を、弱みは解消へ個々職員が実践する。

『選ばれる保育園』となる為の多機能サービスを徹底思考していく。

課題	具体的な取り組み方法	達成目標	達成度の指標	期限
1年間に渡って行う為、ありとあらゆる角度で対応策を考えて保育を行わなければならない。上層部がクリアできると想定していても現場ではクリアできない状況も発生する事が想定される事から、現場職員も問題点について真摯に取り組み声を上げやすい環境を整えておかなければならない。	予定では9フェーズの工事がある中で、仮設への引っ越し・仮設中・新保育室への引っ越しの3つの問題点を探り易くできるよう、フォーマットを作成し、職員・保護者・園児・工事会社と引越し業者との理解に誤差が生じないように徹底を行う。	改築を行う中で、子どもの安全性を最優先し、機能的な環境に整備する。	保護者に対しては年度末に行う年度末アンケートにて評価を確認する。職員・工事会社・引っ越し業者については、その都度問題点を解決し、次回のフェーズに活かすことでフェーズ毎にスムーズに進められるようにする。	年度末
昨年度も同じような目標を立てたが、自分自身に問われているものであるという意識が薄く、達成してもらいたい職員に限って目標が届いていなかった。	職員一人一人に強みと弱みを提出してもらい、弱みについては解消するために何に取り組むのか目標をたててもらう。	人間性の向上(向学心・研究心・人間性向上)を図る中で、職員一人一人の強みは極める方策を、弱みは解消へ実践する事によって、園の発展につなげる。	解消するための目標に対して考えた取り組みをどれだけ行えたか。解消ができたのかを前期と後期に自信と評価者が行う。その評価に対して評価が同等であればクリアとし、差があった場合は問題点として扱う。	年度末